



地方独立行政法人

東京都健康長寿医療センター

〒173-0015 東京都板橋区栄町35-2

(代表電話) 03-3964-1141

(予約専用電話) 03-3964-4890

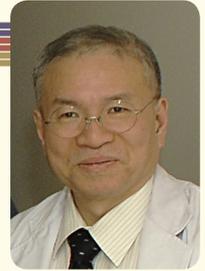
ホームページ <http://www.tmg Hig.jp/>

第125号 (平成28年1月号)

平成 28 年新年のご挨拶



東京都健康長寿医療センター
センター長 許 俊鋭



新年あけましておめでとうございます。

新しい年を迎え、今年も皆様に実り多い年となりますよう願っております。また、昨年中は東京都健康長寿医療センターの運営に多大なるご支援、ご鞭撻をいただき心から感謝申し上げます。平成 25 年に現在の新施設に移転し、職員一同新しい気持ちで狭心症や弁膜症などの心臓病、急性大動脈解離や大動脈瘤などの血管病、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患、胃がん・肺がん・大腸がん・膵臓がんなどの悪性腫瘍、アルツハイマー病などの認知症、肺炎・慢性閉塞性肺疾患(肺気腫、慢性気管支炎)などの肺疾患を含むあらゆる高齢者疾患の診療並びに介護予防に積極的に取り組んでいます。

病院は、特に高齢者の高度急性期医療を担う病院としてハイブリッド手術室など高度先端医療機器を充実させ、最先端医療から高齢者に寄り添う医療まで患者さまが必要とされる医療を提供させていただいています。

国の施策上、高度急性期病院の在院日数の短縮は全ての病院に課せられた責務ではありますが、連携医の先生方のご協力により、高度急性期医療から在宅医療まで西北部二次医療圏(板橋区、豊島区、北区、練馬区)における一貫した地域包括ケアシステムを構築すべく努力しています。700 名を超す連携医をはじめ地域の先生方の当センターに対するご支援と信頼は極めて厚く、先生方と連携・協力しながら高齢の患者さまへの「優しく暖かい医療」の提供を志しています。

ご高齢の方は気候の僅かな変化で体調を崩しやすく、放置すれば致命的になることもしばしばです。私どもは救急医療にも積極的に取り組み、当センターの入院患者の約 4 割が夜間緊急入院の患者さまです。こうした地道な取り組みの中、昨年は救急医療で嬉しいことが 2 つございました。坪光雄介救急診療部長が東京消防庁から、鈴木真友美看護師が板橋消防署から救急医療に対する貢献により表彰されたことでもあります。

当センター職員の士気は極めて高く「患者さま・ご家族に信頼されること」を生き甲斐に日夜頑張っています。どうか、本年も当センターへのご指導、ご支援、ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



知っておきたい白内障

眼科医師 寺田 裕紀子

眼の中でレンズの役割をする水晶体が濁る病気を「白内障」といいます。白内障の原因には様々なものがありますが、最も多いのは加齢性の白内障です。白髪や老眼と同じように、ほぼ全員に老化現象として起こり、実際に水晶体が濁り始めると、霞んだり、物が二重に見えたり、まぶしく見えるなどの症状が出現し、進行すれば視力が低下し、眼鏡でも矯正できなくなります。濁った水晶体を薬でもとに戻すことはできず、進行した場合は手術が必要になります。手術のタイミングや術式は必ずしも全員同じではありませんので、眼科を受診し主治医とよく相談することをおすすめします。

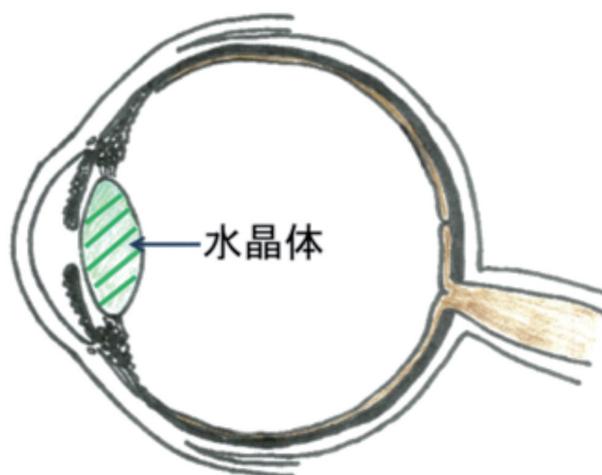
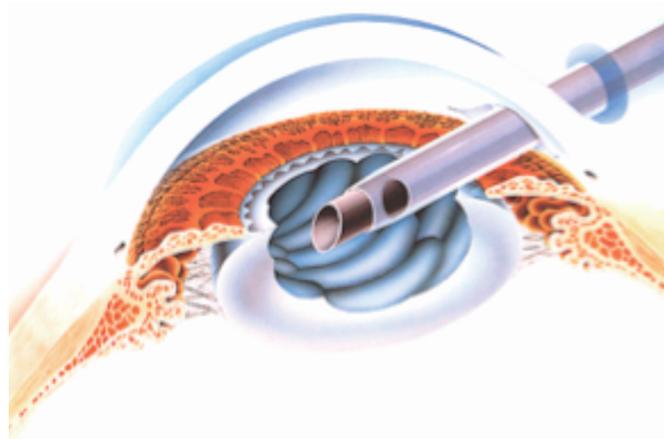


図 1. 眼の断面図

<白内障手術の方法>

現在最も多く行われている手術方法は、「水晶体超音波乳化吸引術+眼内レンズ挿入術」です。ほとんどが局所麻酔で行われますが、仰向けで一定の時間安静にしていることが難しい認知症などの方は、全身麻酔を選択することもあります。角膜輪部付近（黒目と白目の境目）に2～3mmの創口を作り、そこから器具を出し入れしながら水晶体を超音波で砕いて吸引し、代わりに人工の眼内レンズを挿入します。白内障が進行しすぎて超音波



© Japanese Ophthalmological Society

では砕けない場合や、水晶体を支えている糸（チン氏帯）や袋（水晶体囊^{すいしょうたいのう}）が弱い場合は、大きな創口を開けて水晶体を押し出したり、眼内レンズを縫い付けることもあります。

図 2. 白内障を吸引しているイメージ（日本眼科学会 HP より）

<眼内レンズについて>

術後、眼からどのくらいの距離にピントを合わせたいかにより、眼内レンズを選択します。一般的なレンズ（単焦点眼内レンズ）は、ピントが合いやすい距離は1か所です。

- 例** 眼鏡なしで遠くが見やすい→手元は眼鏡が必要
眼鏡なしで手元が見やすい→遠くは眼鏡が必要

* 特殊な眼内レンズ ～多焦点眼内レンズ～

眼鏡をかけなくても手元と遠くの両方にピントが合う眼内レンズがあり、これを選択する場合は通常の保険診療ではなく、先進医療の対象になります。（片眼約40万円）

このレンズを挿入すると、眼鏡をかける機会を減らせますが、光の周辺に輪が強くかかって見えたり、強い光が散乱してまぶしく見えたり、中間距離が見づらいなどの欠点もあります。術後に患者さまの期待どおりの生活が送れない可能性もあるので、選択する前に主治医とよく相談してください。

<白内障手術 Q&A>

Q. 手術をしたら必ずよく見えるようになりますか？

A. カメラに例えると、白内障手術はレンズの交換です。フィルムなどに異常があればレンズだけ交換してもきれいに写真が撮れないのと同じように、水晶体以外の部位に異常があると、手術をしても見づらさが残ります。そのため、手術前後には眼底検査などの精密検査が必ず行われます。

Q. 術後に再発はありますか？

A. 水晶体を手術で除去しているため、白内障の再発はありません。しかし、水晶体を包んでいる嚢は、徐々に濁るので、それによる霞みや視力低下が出ることがあり、これを「後発白内障」といいます（患者さんは白内障が再発したように感じます）。後発白内障は外来通院でレーザー治療を行うことで改善します。

Q. 術後、いつまで通院すべきですか？

A. 術後に必ず必要な点眼薬（消炎剤、抗菌剤など）が数種類ありますが、その中には、順調に経過していても2～3か月は継続した方がよい点眼薬もあります。また、前述の後発白内障が出現する時期は人それぞれ異なるため、検診をいつ終わりにするか一定の決まりはありません。少なくとも点眼薬継続中は定期的に通院し、その後は自覚症状が変化したとき、または年に数回検査をするように、かかりつけ医と相談して決めておきましょう。

臨床検査科のご紹介

臨床検査科部長 田中 雅嗣
臨床検査科技師長 丸山 強

【臨床検査科について】

臨床検査科は、直接患者さまを検査（心電図・超音波など）する生理検査部門と、血液や尿などの検体を検査する検体検査部門とに大きく分けられます。職員数は、常勤臨床検査技師 33 名と非常勤職員 5 名です。

臨床検査科の配置は、1 階に中央採血室（16 番カウンター）、2 階に生理検査受付（25 番カウンター）があり、検体検査室は見る機会が少ないと思いますが 2 階中央部に配置されています。

【生理検査】

生理検査室は、16 名の常勤臨床検査技師で運営しています。

生理検査室は 2 階に位置し、心電図検査や超音波検査をはじめ肺機能検査、ホルター心電図装着と解析、脳波、筋電図検査など多くの検査を行っています。また、平成 27 年度からは一泊入院しての睡眠時無呼吸検査の精密検査を本格的に導入しています。また、超音波室では、現在 8 台のエコー装置により腹部、体表、血管、心臓領域を中心に全身のスクリーニングから精密検査までを行い、ポータブル機 2 台も含め病室に出向いての検査にも緊急対応しています。

当センターの重点医療のひとつとして、心・血管医療があります。そのため、特に心臓超音波検査では、重症心不全治療の評価として従来の検査結果に加え、専用解析ソフトにより更に詳細なデータを提供し急性期から治療後までの変化を客観的に評価できるよう取り組んでいます。また、血管領域では動脈硬化の進み具合を診るために、機能検査、血管エコー（頸動脈から下肢まで）が色々な診療科から依頼されることが多くなっています。動脈硬化は様々な疾患と関係があり、血管全体の観察（検査）が必要となり検査件数も増加しています。

生理検査を受けられる患者さまは様々な疾患を抱えていることが多いので、複数の生理検査が同じ日に行われることもあります。私たち生理検査部門では来室された患者さまの進行状況を各技師が把握し、お待たせすることがないように一丸となって日々努力しています。



生理検査受付

【検体検査室】

検体検査室では、一般検査、血液検査、生化・血清検査を行っています。

検体は、外来採血室からは小型エレベーター、各病棟及び救急外来からはエアシューターによって検査受付に搬送されてきます。採取された検体には多くの情報がありますので、測定することによって病気の状態や薬の効果などを知ることができます。このため検体検査では自動化を進め、“院内測定は全て緊急検査である”と捉え、免疫などの一部の検査を除き 45 分以内に初検値の報告を行いながら、高精度の検査結果を報告できるよう努めています。

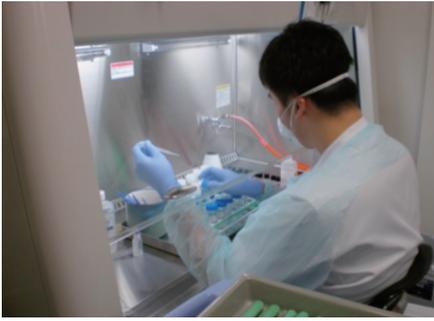


検体搬送用エアシューター



検体検査室

【細菌検査】



細菌検査：抗酸菌検体処理

細菌検査室では、様々な細菌感染症の原因菌と有効な抗菌薬の検索を行っています。

患者さまから提出された検体（血液・痰・尿など）を培地と呼ばれる寒天に塗り、37℃で一昼夜培養すると菌の塊（コロニー）が形成されます。その塊から再度培養を行い菌の特定をしていきます。細菌が血液の中に侵入すると敗血症という生命に関わる重篤な感染症になります。このため血液培養は重要ですので、自動分析装置を検査システムと連動させ、陽性時にはすみやかに主治

医に連絡し、必要な次の検査を実施し、迅速な治療方針の決定に貢献しています。

また、菌の伝搬によって院内感染が拡大しないように、感染症を調査・監視する活動を行っています。

【輸血・細胞療法科】

輸血・細胞療法科は、貧血時や手術時に使用する赤血球や血漿などの輸血製剤を管理し、これらの製剤を患者さまに投与しても問題が生じないように厳しく検査しています。

以前、検査は手作業で行われていましたが、現在は全自動輸血検査装置を導入し、安全・安心な輸血を実践しています。

また近年、予定された手術の場合、手術を行う前に予め自分の血液を採血・保存し、必要時に自分の血液を輸血する自己血輸血も多く行われています。担当技師は採血の介助及び血液の保管・検査などを行っています。さらに当センターでは臍帯血移植にも取り組んでいますので、臍帯血の保存管理や移植後の輸血管理も診療科と協同して行っています。



輸血検査：全自動輸血検査装置

【採血・採尿室】

採血室では、朝8時から採血を開始しています。これにより9時からの診療でも検査結果を提供することが可能になっています。採血患者数は平均250から300人程度で、常勤臨床検査技師1名、非常勤臨床検査技師2名、非常勤看護師1名で担当し、患者数が多い時間帯はさらに臨床検査技師を加えて採血を行っています。採血待ち時間は曜日によりバラつきはありますが概ね混雑時でも15から20分以内となるよう人員を配置しています。

また、車椅子で来室される患者さまのために車椅子専用採血ブースを2か所設置し、スムーズな採血を心がけています。

さらに一人では採尿困難な方が多いため、付添いの方も入室できるように、男女別の採尿室ではなく各部屋を完全個室にしています。



外来採血室：採血台と採血室と採尿室(左奥)

【おわりに】

臨床検査科では、難治性稀少疾患に対する新規の治療薬と体外診断薬の開発にも取り組んでおります。今後ともご指導ご支援のほど、よろしくお願いいたします。



「クリスマスコンサート」について



毎年恒例の「クリスマスコンサート」を、センター職員有志を中心に結成された、アルテハイマート合奏団により、12月16日水曜日午後4時からセンター2階食堂・レストランにて開催しました。

会場には、患者さまとご家族の方が100人ほど集まり、「茶摘み」・「ホワイトクリスマス」などなじみのある曲の美しい調べが、会場を温かく包み込み、皆さんの顔には笑みが溢れていました。また、アンコールでは「水戸黄門」のテーマ曲が演奏され、手拍子も自然に沸き起こり、賑やかにしめくられました。

今後も患者さまとご家族の方に、音楽を通じてよりよい療養環境を提供できるよう、取り組んでいきます。



患者さまの声

リハビリ外来の待合場所に掛時計を備え付けていただきたい。

→いただきましたご意見を踏まえ、3階待合に時計を設置いたしました。

MRI廊下前の待合椅子が少ないので、もっと増やして欲しい。

→いただきましたご意見を踏まえ、MRI廊下前の待合椅子を増やしました。

手続きをしているときに、こちらの動作が遅いと、親切心からかすぐに手助けをしてくれたが、自分のペースもある。こちらから聞くまで少し待つて欲しい。

→お困りではないかと思った際も、まず患者さまにお声がけをしたうえで、必要に応じてお手伝いさせていただくよう改めます。

長年お世話になった主治医から新しい医師に変わったが、何も知らされなかった。後になって転院したことを知った。

→医師が他院へ移ることは、どうしても起きて

しまうことですが、何の説明もなく変わったとのことで、不安な気持ちにさせてしまい申し訳ございませんでした。医師が変わる際は引き継ぎ等をしっかりと行うよう注意喚起いたします。

会計・計算のスタッフは、仕事中にパソコンの指導等をしている。自分の仕事を山積みにして、患者を待たせて困る。

→会計担当に確認したところ、新人への指導を行っていたとのことでした。責任者へ教育等については窓口終了後に行うよう注意指導いたしました。ご不快な思いをおかけして申し訳ございませんでした。

外来に付き添いで待っている間、身体が冷える。冷えが障りのある者には毒である。適温の検討を願う。

→院内は快適な温度管理に努めておりますが、お座りになる場所によっては冷気が入り込む場合があります。暑さ・寒さを感じたときは、近くの職員に遠慮なくお申し出ください。